

令和2年10月9日

各報道機関 御中

宮崎大学企画総務部  
総務広報課長

### 新型コロナウイルス感染症関連重症肺炎に対する治療薬の医師主導治験を開始

拝啓 時下ますますご清祥のこととお慶び申し上げます。

日頃から本学の教育・研究・社会貢献活動についてご理解とご協力を賜り厚く御礼申し上げます。

本学医学部内科学講座循環体液制御学分野 北村和雄教授を中心とする研究グループは、北村教授らが発見した生理活性ペプチド「アドレノメデュリン」(以下、「AM」という。)を、新型コロナウイルス感染症による重症肺炎に対する新規治療薬として開発するための臨床試験(医師主導治験)を開始しました。下記のとおり、AMは炎症抑制だけではなく、ウイルスが感染する血管内皮や各種臓器において臓器保護的に働くことが特徴であり、患者の生命予後を改善し、世界的課題となっている新型コロナウイルス感染症の治療に貢献することが期待されます。

つきましては、このことについて取材していただき、記事等としてお取りあげくださいますようお願いいたします。

敬具

#### 記

##### 【概要】

世界的な広がりを見せている新型コロナウイルス感染症は、ウイルスが血管内皮に感染することにより血管内皮での炎症、血管内皮バリアの破綻が生じ、そこから肺の機能障害をはじめ全身での臓器障害に至り、感染者の生命を脅かす例が多数報告されています。抗ウイルス薬や抗炎症薬など多くの薬剤が治療薬候補として検討されており、一日も早い実用化が期待されています。

本学医学部内科学講座循環体液制御学分野 北村和雄教授を中心とする研究グループは、北村教授らが発見した生理活性ペプチド「アドレノメデュリン」の生理作用に着目し、研究を進めてきました。AMが血管の健全性を制御する必須の因子であることに着目し、抗炎症作用とあわせて、新型コロナウイルス感染症による重症肺炎患者にAMを投与することで、血管や肺の損傷、多臓器障害を抑制する可能性を検討してきま

した（図1、図2参照）。AMは、もともと生体内に存在し、血管や肺を保護する作用があるため、重症の肺炎患者に対して低リスクで有効性を発揮することが期待されます。

このたび、本学医学部附属病院及び国立国際医療研究センター国際感染症センター（大曲貴夫センター長）を中心とした体制を構築し、日本医療研究開発機構（AMED）新興・再興感染症に対する革新的医薬品等開発推進研究事業（2次公募）「新型コロナウイルス感染症（COVID-19）に対する治療薬開発」（AMED 課題番号：20fk0108275h0001）の支援を受け、新型コロナウイルス感染症関連重症肺炎に対するAM投与の効果を検証するための医師主導治験を実施することとなりました。

本治験は、AMという生体に必須の物質を治療薬として用い、生体が元来持っている組織・臓器保護作用を活かすことで、新型コロナ重症肺炎の治療薬の実用化を目指すものであります。

【臨床試験の内容】

実施区分：医師主導 Phase2a 試験

対象患者：新型コロナウイルスに感染し、呼吸不全により機械換気が必要な患者

試験のデザイン：プラセボを対照とした多施設共同無作為化二重盲検試験

目標症例数：40 例

図1

アドレノメデュリン治療の位置付け

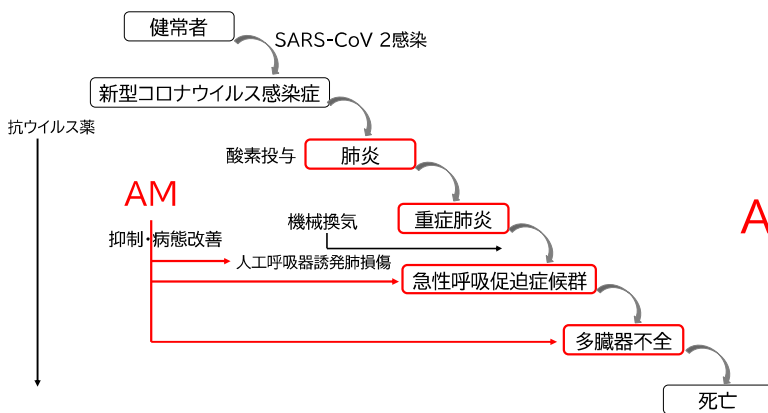
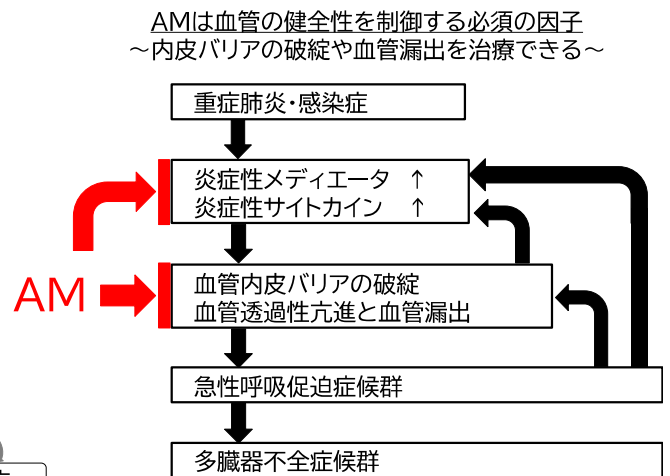


図2



以上

- ① 問い合わせ先  
宮崎大学宮崎大学医学部総務課総務係  
TEL：0985-85-9014 FAX：0985-85-3101
- ② 発信元  
宮崎大学企画総務部総務広報課  
TEL：0985-58-7114 FAX：0985-58-2886